

# 50年ビジョンシンポジウム 議事録

日 時：平成24年3月17日（土）

AM10:00～AM12:00

場 所：七生公会堂

パネラー：

① 青山 侑 （あおやま やすし） 明治大学教授  
公共政策 自治調査会 アドバイザー会議委員

② 細野 助博 （ほその すけひろ） 中央大学教授  
公共政策 自治調査会 アドバイザー会議委員

③ 陣内 秀信 （じんない ひでのぶ） 法政大学教授  
建築学 『水の郷 日野』 編集委員

\*コーディネーターを兼ねる

④ 馬場 弘融 日野市長

司 会：荻原 弘次 企画部長

## 【シンポジウムの記録】

### 司 会

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、またお足元の悪い中、このシンポジウムにご来場いただきまして、誠にありがとうございます。これより、50年ビジョンプロジェクトシンポジウム『夢のあるまち日野へ～自分たちの想いを語ろう～』を開演させていただきます。申し遅れましたが、私、本日の司会を務めさせていただきます、日野市企画部長荻原と申します。どうぞよろしくお願いたします。なお、本日のシンポジウムにつきましては、今後の記録ということで残させていただきたいと思っております。会場内でのビデオ撮影、録音、写真撮影をこちらでさせていただきますので、あらかじめご了承ください。それでは、今回のパネラーの皆様をお迎えしたいと思います。皆様ご入場ください。

それでは、開催に先立ちまして、パネラーの皆様のご紹介をさせていただきます。はじめに皆様方から向かって右側から明治大学教授、青山侑先生でございます。青山先生は、以前、東京都副知事を勤められており、公共政策のご専門でいらっしゃいます。続

きまして、そのお隣、中央大学教授、細野助博先生でございます。細野先生は、ご専門は経済、公共政策で、『学術、文化、産業の連携を目指すネットワーク多摩』に非常に携わられておられた方でございます。続きまして、一番左になります、法政大学教授、陣内秀信先生でございます。陣内先生は、建築がご専門でございます。法政大学と日野市との事業連携のもと、『水の郷日野～農ある風景の価値とその継承』の刊行にご尽力いただいております。本日は、この後コーディネーターもお願いさせていただいております。最後に日野市長馬場弘融でございます。

それでは開会にあたり、日野市長より皆様方にご挨拶をさせていただきたいと思います。市長よろしくお祈いします。

## 日野市長

皆さんおはようございます。今日は、大変寒い冷たい雨が降っている中でございますが、大勢の皆様にご参加いただきまして、心から感謝申し上げたいと思います。今、日野市議会第1回定例会が始まっております。今日は、議員の皆様にもお出かけいただいております。また、お集まりの市民の皆様方にも、市政の運営に多大なるご協力をいただいております。御礼を申し上げたいというふうに思います。それでは、私から挨拶とともに、なぜ今50年なのかということ。そして、この50年ビジョンについての私の思いの一端をはじめに話させていただきたいというふうに思います。

ポイントは4つあります。1つは、来年が市制になって50周年を迎えるということです。併せて、東京多摩国体も行われますが、過去を振り返るということだけでなく、これから先50年後、どういうまちになっているであろうか、あるいはどういうまちを作って行ったら良いのか、孫の世代により良い日野を渡すことができるであろうか、そんなことを考える必要があるのではないか、これが1点目です。もう1つは、東芝の日野工場が撤退をしました。近く、雪印メグミルクも閉鎖をされます。さらには、日野自動車の本社工場、これも順次移転をされるということです。工業都市・日野の根幹が崩れつつあるように思います。戦前から続いてきたこの『ものづくりのまち・日野』というものがこれからどうなっていくのか、それを今考えていく必要があるだろうということです。3つ目は、不況とあるいは円高等々を踏まえ、財政の苦しさが居合わせています。これは自治体だけではなく、国もこのままの行政運営、政治運営では、どうも持続することが危ういという状況に立ち至っています。ずっと続いた右肩下がりの

時代の中で、まちの活力をどのようにしていくのかを考えなければいけないだろうということ。最後に4つ目が大震災です。これから先の日本を考えると、まだひょっとすると東京直下、あるいは多摩直下の大きな地震が来るかもしれないというふうにいわれています。今、生活を見直す、あるいは文明そのものを見直すというような気運もあるわけですが、日本人の意識の変化、こういうことを踏まえて、根本的にまちのあり様、行政のあり様を考え直す必要があるのではないか、こんなふうに考えるところでございます。思い出しますと、今から80年前の昭和の初期は、大変な不況でございまして、戦争の足音も聞こえてきた時代ですが、ずっと江戸、あるいは東京の郊外の農村であった日野、米作りの拠点であった日野が、まちの税収減とかまちの職員の給料が払えない状況を踏まえて、政治家、農業者、土地所有者等々が、大企業を誘致しようという動きでできたわけです。それで、日野五社といわれるような工場が日野に来たということです。日野は水が良かったということ、あるいは電車が走るようになった、あるいは高圧線が通っていた、いろいろ軍の意向もあったでしょうけれども、日野に全然違った形の工場があつという間に増えたのです。おかげで、以来70年以上にわたって、日野は税収だけでなく、まちの活力はもとより、文化、あるいはスポーツなど、幅広い分野にわたって、まさにまちの近代化に大きな貢献をしていただいたわけでありまして、2年ほど前までは、東京都の各区市町村の中で、工業製品出荷額という統計がありますが、日野はトップでした。ところが、最近は3位になり4位になり、だんだん、だんだん下がってきているという状況にあります。これからはやはり、『ものづくり・日野』といえるようなまちのあり様を維持できるだろうか、そういう状況にあるわけでございます。今こそ新しいまちづくりの校正が求められているというふうに思っています。これから、どういうまちづくりを我が日野市はしていけばいいのか、大きな視野と、あるいは長期的なスパンを持って、今新たな方向に踏み出すべきではないか、こんなふうに考えたのがきっかけでございます。いろいろなヒントはあると思いますが、やはり日野が持っている長所と言いますか、良いものをもっと活かしたまちづくりが求められるだろうと思います。いくつか申し上げますが、豊かな水と緑、高幡不動や百草園、多摩動物園、こういった観光資源、あるいは新選組とか歴史の遺産の多さ。全国の自治体に先駆けた図書館の多さ、あるいはJR中央線、京王線、モノレール、中央高速、甲州街道、こういった道路の要衝であって、なかなか便利なまち。結果といっても、ものづくりの優秀な企業が立地をしている。最後に、日野の住民の先進性と言いますか、新しいものへのチャレンジ精神の旺盛な住民が、ずっと住んできたということでありま

す。これらを基にして、今日は3人の先生方、それぞれの分野をお持ちでございますので、ご持論で日野のイメージを自由に語っていただいて、どのようにこれからのまちづくりを行った方が良いのではないかと、あるいはご提案いただければありがたいというふうに思っています。是非、会場にお越しの皆様方には、先生のお話を伺いながら、自分たちの日野のこれからのイメージを膨らませていただければ、ありがたいというふうに思います。ぜひ、有意義なシンポジウムになるようお願いを申し上げて、冒頭、やや長くなりましたけれども、ご挨拶に代えたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

## 司 会

馬場市長ありがとうございました。ここからの進行につきましては、コーディネイト役もお願いしています、陣内先生にお願いしたいと思います。先生よろしく願いいたします。

## 陣内先生

どうぞよろしく願いいたします。今、馬場市長から、この転換点をどういうふうに構想していけるのか。50年後のビジョンをどのように大きな視点から考えるかと。今日は、そういう大きな中でのシンポジウムになると思います。現状を分析すると、暗い話題はいっぱいあるけど、しかし、日野の長所を探索するといっぱい出てくる、というお話も今伺いました。今まで2回ほど、今年に入って市長を囲んで懇談会と申しますか、プレーストーミングみたいなことで、今日お越しいただいている青山先生、細野先生、私で自由に議論させていただいて、今日はまさに市民の皆さんと一緒に考えたいという場になりました。それでは早速、今日のテーマとして、『日野の個性』と『まちづくりの担い手』になっていますけれども、先生方に10分位、お考えや提案をお願いしたいと思います。まず、青山先生よろしく願いいたします。

## 青山先生

私は、都庁に36年間勤務していました。東京には、62の区市町村があります。その中で、日野の印象はどうか、ということをお話したいと思います。

東京都庁から見ると、日野の第一の特徴は、交通の要衝にあるということです。ちょうど都心から30kmちょっと行った所にございます。時間、距離からいうと行きやすい所です。この高幡不動も、モノレールを大変かわいがっていただいておりますけど、

それと京王線との乗換駅ということにもなっている、そういった位置的な特性です。特に、東京から日野は埼玉にも近いし、神奈川にも近いし、山梨にも近い。そういう意味でいうと、首都圏の中では地理的に中心的な位置にあるということがあります。そのためなのか、工場も多く立地しているし、それから人口も増え続けています。夜間人口どころか、昼間人口、つまり働いている人達、あるいは学ぶ人達も増え続けているというのが日野なのです。もちろん今、計画的にはありますが、現在の時点でも昼間の人口も夜の人口も増え続けているという区市町村が、全国にどれだけあるのかといたら、むしろレアなケースで、これが1つの日野の特徴ということだと思います。それから2つ目に、これまた日野の皆さんが思っていないかも知れませんが、都庁から見ると、日野というのは、水の都だという印象が強いです。それは地形学的な類の話になりますけれども、多摩川と浅川が交差している、合流するという。北側に武蔵野台地、南側に多摩丘陵があること。西側には地理学的にいうと関東山地という多摩の山々があるということ。そういう意味でも、地形学的にいても中心地にあるわけですがけれども、この多摩川と浅川、さらに日野の市内には非常に水路が多いです。皆さんは当たり前だと思いかも知れないですが、東京全体からいうと非常に水が多いという印象がございませぬ。もちろん、5000年ほど前の地図を見ますと、海が日野の近くまで迫っていたわけなので、水に非常に縁があるということだと思います。実は、江戸の都自体も水の都だったわけですね。江戸八百八町で見ますと、東京都で計算してみたのですが、明治維新の直前、江戸末期には江戸八百八町の地図に占める水面率というのは約11%だったのです。その後、特に第二次大戦のあと、戦災のおかげで、水路を埋めるということをして江戸のまちはやってしまったので、現在の水面率は6%ちょっと欠けるということになります。日野の水面率は、大雑把にみて1割以上はございませぬので、数字的に見ても、日野は依然として水の都ということが言えます。これは、私どもが持っている印象がそのまま表れているように思います。3つ目の特徴ですが、これまた日野市民の皆様がそう思っているかどうかは別として、私たちから見たら、日野といえば新選組で、日野といえば土方歳三ということになります。これは、非常にロマンのある話でして、近藤勇も良いのですが、やや最後がわかりにくい捕らわれ方をしている。これに対して、土方歳三は真にわかりやすい。明治2年まで函館で戦って、最後に負けたとわかったら、突進死してしまっただけということで、最後の新選組の隊長が土方歳三であったのか、そのあと一週間隊長を務めていた相馬主計になるのか論争になるのですけど。いずれにせよ、事実上、土方歳三が明治2年まで率いていた。都立日野高校というのがありますけど、日野の石田

寺ということで、これだけ多くの方が訪れたことは、日野には他にもありますけど、1つの特徴ではないかと思います。もう1つは、多摩の農民から出た人たちが、明治維新に逆の意味で参加したというのも、これまた明治維新を戦った人達ってというのは、そのときの権力階層はなかったわけで、これがいわゆる多摩の自由民権運動含めて民主主義の1つの前段階での芽みたいなのがあったという意味で非常に印象的なことなわけです。その歴史遺産というものは非常に大事で、日野のまちで新鮮組のイベントで時々、誠の新選組の旗がはためいていますけど、非常に日野というのはイメージ的には似合うまちなのです。さらにいうと、日野には、東京都は多摩動物公園を置いていただいています、これも公園という概念から言いますと、元々イギリスで初めて人々が使える公園として、最初にできた公園というのが動物公園だったわけです。現在、水と緑というと公園だといって、その公園面積がどれくらい市内にあるかということ自治体が競う時代になったのですが、動物公園を持っているというのは、失礼ながら一般的な普通の公園を持っているよりも、ずっと貴重なことでなかなかこれはできないことなのです。つまり以上のことをまとめると、第1に交通の要衝にあって、地理的に中心にあるということ。第2に水の都であるということ。第3に歴史遺産とかいろいろな遺産があるということ。以上を考えると、これから成熟社会で高齢化社会を迎えていく中で、これはやはり多摩で、日野がその中心になって何で生きていくのかということについての1つのヒントになると思います。大量生産時代が終わって、高度情報化時代になって、成熟社会を迎える。成熟社会というのは、デニス・ガボールの定義によると、人々が経済成長をあきらめてもその質の向上をあきらめない、という社会です。物理学者のノーベル物理学賞のデニス・ガポールですけど。これも、成熟社会の1つの特徴を表していると思います。そういう中では、日野はやはり情報化とかあるいは観光だとか、観光っていうとやや言い過ぎなのですが、情報交流みたいなことを含めたもの、広い意味での観光ということで、1つの今後の方向性の中の1つということで捉えることができるのではないかと、そういうふうに思います。ただ、誤解してならないのは、観光だからいろいろな人が来てこのまちで楽しんでもらいたい、というのはあっても良いのですが、それが、日本の政府がやっているような“ようこそジャパン”とやっているような、観光のためにいろいろサービスしなさいとか、ホスピタリティを持ちなさいとか、あっても良いし、それも反対ではないのですが、ただ私は、やはり成熟社会というのは、まず市民が楽しむと、日野市民がこういうまちであってほしくて、こういう芸術文化が育てほしいということがまず先にあって、そこで市民が楽しんでいること。そして、外国

の人やよその人が、どれどれといって日野に見に来る。そういう順番じゃないかなと、そういうふうに思います。水の都というと、陣内先生が言うことを先にとっちゃったかもしれませんが、最初に指名された特権で、先に言っとかないと、どうせ陣内先生がもっと高度なことをいうと思うので言わせてもらいました。そういうイメージでやっていけば良いのではないかと最初に申し上げておきたいと思います。

### 陣内先生

どうもありがとうございました。時代が変わって行きつつある中で、日野はものすごくいろんな財産、これから戦って行く上での素晴らしい要素が、たくさんあるということをご説明いただきました。先生が最後、水の都と。東京は、全体が水の都というのがすごいですね。水源地から始まって、ずっと山があり海があるという東京の中でも、日野が一番良い場所にあり、交通の要衝にもあるということでした。どうもありがとうございました。続きまして、細野先生お願いします。

### 細野先生

おはようございます。細野でございます。青山先生みたいに、時代をこう長く、あるいは地理的に多様な話はあまりできませんので、私は、どちらかというデータに基づいてお話をします。先ほど青山先生とお話ししていて、先生が単位違うのではないかとお尋ねになり、見直したらおっしゃる通りでした。少しデータに基づく話をするときに、注意深くお話ししたいと思います。

現在日野が抱えている課題について、市長さんから非常に手際の良いお話があったわけですけど、私も日野はどうやって生き残っていくべきなのかということ、今日いただいたテーマ、『日野の個性』あるいは『まちづくりの担い手』という2つに絞って、少しお話ししたいと思います。まず1つが日野はどうなるんだろうかという、そういう思いが皆さんにはあると思うのです。でも向こう三軒両隣と言いますが、お隣さんである他の市を含めて多摩地域がどういう状況にあるのかということについても、少し目を向けていただきたい。多摩地域には30の市町村があります。東京の都心は23区です。人口で見ますと、1：2です。23区は800万人、多摩地域は400万人です。広さで見ますと、23区を1としますと多摩は2くらいですね。そうしますと、単純な計算をしますと、人口密度は4：1という形です。ですから、そんなに高層ビルもなくて、日野のように水があって、田んぼがあって、里山があって、こういうことなのです。2

3区はそんなにはないです。ただし、23区も結構大きな公園があるということでは、東京は全体として美しいまちではないかなと思います。皆さんもご承知のように、平成の大合併がございました。3000くらいあった市区町村が、全国で1800くらいになったのです。数は約半分に減ったのです。幸か不幸か、多摩は合併がありませんでした。平成の大合併は、ほとんどしなかったのです。若干、あきる野とか西東京はありましたが、それは非常に例外的でございました。現在で言いますと、八王子市の55万人、桧原村の2700人。多摩地域には55万人くらいの大都市から2千人から3千人くらいの所もあるのです。非常に多様な市町村で構成されている。これも1つの多摩の個性ではないかなというふうに思います。もし、その個性というものがなくなったらどうなるだろうかと、ちょっとシミュレーションをしてみました。そうしますと、30の市町村が、大体16~17くらいになるわけです。それぞれの単位が、大体20万人くらいでしょうか。あるいは、17万人から25万人くらいという形でだんだん収束していくのです。そうしますと、今八王子は55万人ですけど、八王子はひょっとすると2つくらいに分かれるかも知れない。日野市さんは、今17万人くらいですけど、1つの単位になるかも知れませんし、あるいは、他の所と合併するかもしれない。そんな単純な計算ができるわけですけど、果たしてそういう形での、本当に均一な金太郎飴のような、そういう行政体だけで構成されて良いのだろうか。まちの個性を考えると、人口規模で考えても、小さなところと大きなところというように、まちの様々な、多様な個性を持った町や村や市があって良いのではないかと考えます。

では、こういう都市間競争で段々、段々平均化するような市ができつつあるときに、日野市はどういう形で生き残っていったら良いのだろうか、ということのを少し考えなければいけない。その時に、私は向こう三軒両隣がどう考えているのか、どういう形でお隣さんと競争しているのか、共存するのかということを考えなければならぬわけです。現在立川は、確かに脚光を浴びていますけども、そんなに人口が増えているわけではありません。むしろ、日野市の方が人口の増え方が高いのです。何故なのだろうかと考えなければいけない。1つは、“日野自動車のまち”と言われるかも知れませんし、“高幡不動のまち”と言われるかも知れませんし、先ほど青山先生がおっしゃったように“多摩動物公園のまち”っていうのがあるかも知れません。ただその時に、“日野は”っていうのはっきり市の名前を頭に載せて、“日野市は日野自動車もあるまち”と言ったり、“日野市は多摩動物公園を持っているまち”と言ったりできるのか。“日野は”という

ことが付いてくるのか。あるいは、“日野”という字が全然なくて、“多摩動物公園がたまたまあったまち”というふうによその人たちが考えるのか。この違いが実は大きいのです。“日野市は”という頭出しができる、そこの仕掛け作りをどうするのかということは、とても大事なことだと思います。先ほど市長さんの方から、工業出荷額はかつて一番で段々、段々、落ちてきているという話ですけど、ただし多摩地域の平成20年の統計を見ますと、順位はやはり一番です。事業所で見ると、八王子には1200くらいの事業所があります。日野の方は、180くらいでそんなに事業所数は多くないのです。ところが、問題は何かというと、八王子は小さな事業所がたくさんあるのです。日野はどうかというと、大きいのがたくさんある。そこなのです。これは良くもあり、悪くもあるのです。というのは、1つ撤退するとガーンと出荷額が落ち地価が落ちたりするのです。ところが、八王子は小さな事業所がたくさんありますから、1つくらいがたまたまどこかへ行っても、そんなにその工業出荷額が落ちたりしないのです。今多摩の中で、日野市は多摩全体の工業出荷額が大体16%くらいです。ところが、八王子はその半分で8%くらいです。ただし日野の場合大粒の工場がなくなると、本当に大変です。これは1つの大きな課題だと思います。もっともっと中小の企業がたくさんあって良いのではないかと思うのです。日野自動車が、今度は出て行きますけど、これを、私はピンチというよりもチャンスと考えるようなことを考えたらどうだろうと思うのです。それはどういうことかいうと、実は日野自動車はトヨタグループです。トヨタは自動車ばかりではないですね。情報通信、それから住宅産業、いろんなことやっています。おそらく車メーカーのイメージをガラッと変えるようなことも将来的にはやるでしょう。その延長線からすると、トヨタグループの総力を挙げて、エコタウンのようなものとして日野自動車の跡地を考えることができないだろうか。まちというのは衣食住のベースを支える最も重要な空間です。エコ、あるいは環境というものを1つのキーワードにして、どういう新しい住まい方、ライフスタイルを日野から提案できるのだろうか、それを住民の方々と、あるいはトヨタグループの専門家の方々に入ってもらい、最初に司会者の方から、学術文化産業ネットワーク多摩の話がありましたけど、大学をもうちょっと使っていていただき、思い切った提案を出していただきたいのです。そうして、「これからの時代を見据えた新しいライフスタイルは日野から」という話題を提供してほしい。この動きが大事だと思います。先ほど青山先生から、水の都という話がありました。僕も水の話をしてほしいのですが、水が多いから田んぼが多いです。他の多摩の地域の農業の場合は、畑作が結構多いのです。しかし突出して、日野は水田が多いですね。その豊

富な水を使った農産物、あるいはお米、それからすばらしい水、これを何か新しい魅力づくりに使えないのか。新しいライフスタイルにそういう農産物をどうやって使うか。今、六次産業化という話があります。六次産業化っていうのは $1+2+3=6$ ではないのです。 $1\times 2\times 3=6$ として考えていただきたい。掛け算というのはどういうことかという、1つの部門でもバランスが狂うと、どんどん0に近づきますから、他のものがどんなにがんばっても、やはり0は0になってしまいます。足し算は、1つのものが0になっても十分に成り立ちますが、掛け算はそうはいきません。みんなバランスを取らなきゃいけない、ということです。六次産業化ということも、1つ考えたらいかがかなと思いますね。そうするといろいろな点で、日野の良い面を使って弱い所は補充しながら、エリア・マネジメントをしなくてはいけない。そのエリア・マネジメントをする主役は何か、これは、まちづくりの担い手という今日の話の第2テーマです。1つはやはり行政、とても大事です。行政にがんばってほしい。行政はまちづくりのアンカー、つまり核であります。最後の砦として、とても大事です。その行政に私が一番期待したいのが、「わが街をアピールする」シティセールスです。先ほどの話ですけど、日野自動車のまち、高幡不動のまち、多摩動物公園のまちじゃなくって、「日野は高幡不動ばかりでなく、こういうものを持っている」と、行政が率先してシティセールスをぜひやっていただきたい。2番目は、市民の方々。日野の市民の方々は、自立している世帯がたくさんいらっしゃるということでは、多摩の地域では特異だと思います。この市民の人たちを活用していただきたい。それと同時に、市民の人たちもなるべく協力してほしい。行政に物申す、行政に要求するだけではなくて、「行政と私は何ができるのだろうか」自問する、提案する、これはすごく重要じゃないかと思うのです。社会というのは、私はコミュニケーションでできていると思うのです。コミュニケーションは言葉のキャッチボールです。これをやっていただかないとダメです。「私たちはこれをやりますから、皆さんもこれをやってください。」「はい、わかりました。」といったこの言葉のキャッチボールを前提とした協力の仕方というのが、とても大事だと思います。住民の方々の参画はとても大事で、それがおそらく行政コスト、それから財政支出ともいいますが、そういうものを軽減させる力を持っているのではないかと思います。最後です。ネットワーク多摩という産官学連携があります。私は、八王子の大学にいますけれども、ほんの一跨ぎしますと日野です。明星大学もあります。もちろん、陣内先生もいらっしゃる法政大学も会員です。大学をぜひぜひお使いいただきたいと思います。人材作りとか研究のネタ作りとか、地域資源の掘り起こしというものに対して、大学は十分に協力

する体制にあると思います。少し長くなりましたけど、私の話をこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

## 陣内先生

どうもありがとうございます。新しいライフスタイルを日野から、というのは素晴らしいお話で、夢が持てますね。そのために何をなすべきか、欠点も克服し逆境をチャンスにという。そして主体、つまり誰がどう担うかという話をいただきました。私は司会なのですが、3人目としてちょっとお話させていただきます。

先生方お2人が、いままでおっしゃったこと、私も普段から考えていることにぴったりです。震災後、とりわけ地域の力というのが大切だっていうのを本当に感じており、横につながる、連携することが大事だと思います。それで、日野は地勢の変化に富み、水が豊かで湧水も多く用水路もたくさんつくられ、農業を発展させ、水田というのが非常に特徴である。総じて見れば、水の郷、水の都市、それから歴史的には豊かな農村だったからこそ、新選組も出だし、自由民権運動も出たわけです。非常に印象的だったのは、青山先生が交通の要衝で中心にあるということです。考えてみれば、江戸の町の上でできた今の東京都心は、中心部のような顔をしています。あっちはド田舎だったわけです。こっちが古いわけです。多摩の方が古いわけです。もう1つ細野先生の話で、八王子は事業所がたくさんあって、みんな小さくて個人ががんばるその集積だと。これは、歴史がある所でないとできないです。急にできた所はなかなかできない。私、実はイタリアについて研究しているのですが、イタリアというのは、みんなが社長になりたがっている、そういう個人の事業者がいっぱいある所で、個人営業と言いますか。今、世界に金融問題に巻き込まれ経済の調子が悪いのですが、時代の変化に対応しやすいのです。そういう自立する気持ちを我々日本人ももっと持った方がよいと思います。今後は地域の資産を活かしたまちづくりこそが重要で、だからこそ、まちづくりと同時に、地域づくり、地域興しとかという言葉も入れた方が良くないと最近思うのです。特に、日野市とお付き合いしていると感じるのです。そこには、自然があり、自然も多摩丘陵があり、台地があり、先ほどの青山先生が見事におっしゃった地形があります。これは、東京全体の縮図なのです。東京全体が、地形の変化に富んで水の豊かなのですが、その一番良い所が凝縮されて日野にあるのです。だから、多様なのです。多様というのは、さっき細野先生もおっしゃっていた、これから個性を、つまり均一、金太郎飴にならないためにはですね、これは一番ありがたい条件ですよ。これは元々生まれ

持っているのですね、日野は。ところが、当たり前の風景として皆さん見逃してきてしまったのです。湧水、わき水もあり、水のネットワークがいっぱいあり、そういうことに注目する活動を市民の皆さんの間でも、行政でもいっぱいありました。しかし、全体の風景だとか、農村の集落、神社の位置とか、すべてこれからの日野を楽しく歩いたり、地域に自信をもったり、他との違いを、農業をもっと育てていく上では、大変な財産なのですが、トータルで評価するというのが中々なかったので、私達は、それを日野の市民や行政の方々と一緒にやりまして、『水の郷 日野』という本を出したのです。今はそういう自然と歴史と人々が築いてきた生活文化、そういうもの全部入れて地域資産をトータルに、ビジュアルに見て理解しようとしています。今、日野塾というのをやっています、法政大学エコ地域デザイン研究所の仲間と、市民のそういうことを手がけて行きたいという方々に集まっていただいて塾をやっているのです。今度の25日に、また、まちを歩いてマップを作ったり、これからはエコミュージアムというふうにもしていこうと思っているんです。今日も、会場に来ていらっしゃるんですけど、法政エコ研の高橋賢一教授も、歴史・エコ廻廊ということを提唱されていて、これはつなぐ、ネットワークをつなぐ、日野って大きいですから、それぞれ鉄道の駅からの生活圏があったり、みんなバラバラだと思うのですが、これをつないでいくということです。もちろん、八王子や立川や他とつなぐこともあるので、まちをつなぐことはあるかもしれないけど、まずは日野の中でつながないと始まらない。そのときに地形とか、古い街道とか、水路というのは、地形をうまく利用しながら作っていますから、身体にピタッとくるわけです。歩いて感ずる、そういうがいっぱいあるわけで、そういうものを発見してほしいと思うんです。市長に話を伺っていると、もう1つ、私達があまり知らなかった工業、さっきも平成20年までは東京都の製造品出荷額がトップだったそうなのです。その話は、私達にちょっと抜けていたのです。これが撤退してしまうということで、今非常に危機感をお持ちになっているわけです。そこでどうするかということなのですが、さっきの細野先生の話に絡んでくるわけです。これから大企業が出た後、どういうふうに新しい産業基盤を作るのか。その成熟社会、情報そういうものとリンクする文化です。観光ともつながるし、農業がそこで活かされることが非常に重要です。ヨーロッパが非常に農業を重視しています。特にイタリアは、食文化で非常に輝きを持ち始めていまして、それは田園を大切に、地産地消の構造を本当に今がんばって作っているのです。スローフードという運動で、世界中の人たちを魅了しているのです。それは、地域興しにつながるのです。食文化なので、都心から30キロちょっとという日野の土地は、非常に

その点で有利だと思うのです。みんな、そういう残された自然、人々が作ってきた風景、野生の自然ではなくて、人々が作り上げた見事な農村の風景なのです。そこの中に、水がいっぱいあって、そこでがんばって農業を営んでいる方々、あるいは新しい形で市民農園をやっていらっしゃる、私もいつもお世話になって一緒にやっているコミュニティガーデンせせらぎ農園とかです。生ゴミを集めてきて堆肥にして、みんなでコミュニティガーデンを作っている素晴らしい活動です。それから、百草園の百草の倉沢にある石坂ファームです。そういったもっともといっぱいいらっしゃることを私たちは知っています。そういうふうにして、この地域の豊かな自然、田園、そういうものをキープすることで、それに付加価値をつける、農業を育てていく。それともう1つ重要なのは、優良な企業、優秀な人材を外からもっとも魅力を発信して来てもらう。実は、先週まで8日間イギリスとアイルランドで、私達エコ研の仲間と視察に行っていました。イギリスは工業化して、産業革命以後どんどん世界に発信していったわけですが、工業がダメになって、みんな都市が衰退してしまったのです。ところが、運河とか、ドッグとか、水辺とか、そういう所を活かして、ものすごい勢いで今再生されているのです。元気なのです。その水辺の周り、運河の周りに、環境のすばらしさに惹かれて優良企業が、世界のトップの企業が来てくれるのです。そこに、食も一緒、文化も発信し、経済活動の基盤になっている。だから、良い環境、良い水辺、良い自然、豊かな食材、そして先進性を持った開かれたコミュニティがあれば、そこにいろいろな世界企業も、あるいは小さなものも良いですが、そういうものが来てくれて、これからの産業になって、地元にも雇用や新しい職場が出来ていくのではないかなというふうに思います。だから、今まで環境、培ってきた環境が、観光にもつながるけれど、新しい経済基盤、エコタウンという話もありました。そういうふうにしていくと、個性を発見するということと、今後それを活かした産業・経済基盤作りというものの結び付きも、先生方のお話をいろいろ伺っていると見えてきたのではないかなと思います。

ここで、司会に戻りまして、それぞれ先生方から提示された個性の再評価と、これからの展望に向けて、いろいろな提言が出てきましたが、その辺をさらに発展させて、まずは、市長さん含めてお話をして、そのあとで皆さんからのいろいろな質問やご意見を伺います。まずは市長に、お話聞かれて……………。

## 日野市長

とても、それぞれの先生方から非常に適切なご指摘をいただいて、いつも考えていること、あるいはそれはちょっと考えが及ばなかったということ、いろいろありましたが、すでに自分の頭の中でいろいろなことが、ぐるぐる回っている状況なのです。そういう中で、青山先生のお話で一番感じたのは、市民が楽しむということです。要するに、楽しそうなまちということだと思います。例えば、たくさん電車が通っているわけですけど、どうも豊田にしても、日野にしても、あるいは高幡不動にしても、平山にしても、どうも『このまちの人はみんな楽しんでいる感じがする』というようなまちを作っていくということが、とても大事であることを思いました。それが1つと、やはり、エコと言いますか、環境と言いますか、そういうものにもう1回回帰するということといけないのかも知れないけど、もともと日野は何で良かったのかと、何で会社に来てくれたのだろうか、何故これだけ発展したのだろうか、といえばエコだったからということに行き着くと思うので、これからはもう1回そこをもっと発信すると言いますか、そういうことが必要かなということを感じました。あと、細野先生のお話では、新しいライフスタイルということの発信もあったのですが、中小の事業所をもっと呼んだ方が良いのではないかと。今、陣内先生からもお話があった、優れた企業、決して大きくなくても良いけど、小さい企業が来てみたいと思わせるようなまちにしていくと。事業所がたくさん近くにあれば、わざわざ遠くまで、朝早く起きて通わなくて良いし、そこでグルッと、仕事場もあって楽しむこともできると、そういうまちを本格的につくっていく必要があるということを感じました。今日もまだ、それぞれの方からいろんなお話が伺えると思いますが、私はあと、細野先生が言われた“シティセールス”という面では、我が日野市の行政がこれまでどうだったのかと思うと、特にすごい工業都市であったにもかかわらず、工業に対する施策というのはほぼなかったのではないかと思います。みんな、大企業におんぶに抱っこで、ずっと来てしまった。これからは、そうではいけないと思います。全体を考えて、エコを中心にしながら、いろいろな事業所も来られるような、市民が楽しめるようなまちをつくっていかねばいけないということを感じているところです。これからも続けてお話を伺いたいと思います。

## 陣内先生

どうもありがとうございます。今回、このシンポジウムの前に、市でお作りになった映像を拝見しました。その前に50年前の映像で、日野が成長し始めた元気な姿を映し

たモノクロの映像だったのですが、それに触発されて今度作ったものがありました。それを拝見すると、ものすごく市民がイベントとか、祭りごとで、すごく盛り上がっていて、元気さがいっぱいあるのではないかと思います。その元気をまちづくりにどう活かしていこうかということではないかと思います。青山先生の楽しいまちづくりというか、楽しい環境、どんなふうに、どのようにしていけば良いのですか？

## **青山先生**

例えば、ニューヨークのタイムズスクエアは、そこは繁華街でイベントの場所に徹するという考え方なのです。ニューヨークは、ほとんど看板は禁止されているのですが、タイムズスクエアに面したビルは、オフィスビルだろうがマンションであろうが、必ず24時間365日、派手なネオンサインをつけっ放しにして置かなければいけない。そういうことをニューヨークの州の条例で決めていて、そこだけは繁華街だということをやっているのです。そのことよりも、やはりニューヨークがなんで金融だけではなくて、観光でも食べて行けるのかというと、ミュージカルであるとか、ジャズだとか、それからコンサートもそうですけど、やはり一流のものが演奏されるようになったということなのです。それが何故、一流のものが演奏されるようになったのかというと、いきなりになったのではなくて、市民が楽しんでます。私も、ブーイングで俳優を倒す、歌い手を倒す風景を見ていますが、ニューヨークの場合は、地元の人がまず聴きに行く、観に行きますから。ミュージカルでも、普段着で行きます。肩もあらわなドレスを着ていくわけではなくて、仕事から帰って家族連れで、ハンバーガーなんかを食べて。それで、そろそろと普段着で行くという人たちが多いのです、実は。鑑識眼がとても高くて。本当に下手だとか、不満があると、ブーブーとやって倒しちゃうという風景を、私も見たことありますが、そういうふうにやはり高度な芸術文化というのは地元の人が楽しむものだと思います。そういう意味で、絶えずいろいろイベントをやると。私は絶えず、全部新選組でも良いと思っていますのですが、それが良いのではないかと思います。その場合に、肝心なのは市民が楽しいということをやらなければいけないので、よその人のために奉仕するという意味ではまったくないのだと思います。市民が楽しんでいて、みんなが観に来て、儲かれば良いというのが良いのではないかとそう思います。

## 陣内先生

ありがとうございます。そうですね、市民が自ら。いろいろお話を伺っていると、例えば、買い物に行くとか、飲みに行くとか、社交する場を日野の中にぜひ作ってほしいのに、皆さん、行政の方も市民の方も、お隣のまち、八王子ですか、町田ですか、そういう所に出かけてしまう。宴会にも、何故か日野のお店を使わない、それでは地元の楽しい空間とかは育たないですよ。私、もう1つ重要なのは、おしゃれをして行ける場所が無いということです。田園は田園らしく、まちはまちらしくという。たぶん、高幡不動なんかは、本当に古い時代から門前町としての核とプライドと賑わいがあり、まちの中のまちだったのではないかと思うし、日野宿だってまちとして輝いていたのです。その周辺に豊かな水田があって、湧水があってという状況、両方がなんか市街化してしまう宅地化してしまうということで、メリハリがなくなっている。これは日野だけじゃなく、日野はまだ良いのですが、日本全体がそうなっちゃって、おしゃれして行く所はないし、イベントも都市空間を上手に利用されていないと思います。

## 青山先生

商店街の話が出たら、一言、言いたいです。私は、商店街繁栄の条件というのは3つあって、『歩ける』『座れる』『夜遅い』この3つだと思うのです。『歩ける』というのは、どういうことかということ、これはアーケードでも、カラー舗装でも、車との分離でも、これはやれると思います。問題は、『座れる』ということなのです。日野のことではないですが、日本の商店街で、やはり努力が足りないと思われるのが、『座れる』ということなのです。アウトレットモールにお客を取られる、あるいは大規模スーパーにお客を取られていますが、そういう所は大体座れる所があって、手洗いも使えます。これは、やはり最低限商店街はやらなければいけないことです。世界を見ても、例えば、ロンドンのエロス像があるピカデリーサーカス、何にもないのに階段があるのです。あの階段は何のためにあるかということ、上るためにあるのではなくて、座るためにあるのです。ローマのスペイン階段もそうで、座って街を眺める。パリのモンマルトルのサクレクール寺院も、パリの街を眺めるための階段なのです。さっき言ったタイムズスクエアも、道路に階段を作りました。これも上がって行って何が見えるかという問題もありますけど、上に何もあるわけではなく、座るための階段です。座る所を作るとするのは、商店街の努力として必要ではないかと思います。『夜遅い』は教育上問題があるなんてとんでもないことで、商店街が8時に閉まってしまうとサラリーマン、今皆働いている

わけで、専業主婦が午後3時に買い物に行く時代ではないので、夜商店が開いていないとダメなのです。それから、さらにサラリーマン、OLからいうと、夜、自分のまちに戻ってきて、酔っ払いのいない所で食事をしたいわけです。夜の10時でも11時でも。はっきりいって、お蕎麦屋さんとか、スパゲティ屋さんが、アルコール無しでも夜10時11時にご飯を食べられる、そういう商店街が栄えているのです。働いている人を相手にする商店街というのは、やはり栄えていくという時代なのだと思います。だから、日野にもぜひ、そういう商店街があると思いますけど、もっとあって良いのではないかと思います。

### 陣内先生

段々、元気を出す方向のイメージが皆さんもわかってきたと思うのですが、商店街というのは、細野先生も前から、商店街をもっともっと元気にしなきゃいかん、とおっしゃっていましたよね。

### 細野先生

日野の土地利用を見ますと、商業地区というのがとても少ないです。宅地の中の10%もないのです。ほとんどが住宅地です。先ほど、市長さんがおっしゃっていたように、職住近接だったらもっともって時間的余裕ができて、街中で遊べるでしょうと。遊ぶ時、青山先生がおっしゃったように、どっかりと腰を落ち着けて、往来の行き来する人たちを見たりとか、アイスクリーム食べたりとか、あるいは喫茶店があったら、そこでこんなファッションが流行っているのだとわかるわけです。そういう商業を、どういうふうの特徴づけるのかというのが大事で、大型店だけが栄えるような、そういうまちづくりはとても良くないなと思います。私はよく、吉祥寺と立川を比べるのです。その時に、これからの時代どっちの方が繁華街として栄えるだろうかと考えると、私は吉祥寺だと思います。確かに、吉祥寺から伊勢丹は無くなりました。けれども、小さな個性的な店がみんながんばっているのです。それでは立川はどうでしょうか。立川の方はここにいらっしやらないと思いますけど、私は、実は立川の中心市街地活性化の基本計画のお手伝いしたのです。でも大型店だけががんばって、他の所は知らん振りしている、こんなまちづくりにする予定でもなかったし、そんなことは予想つきませんでした。現在は商店街も元気がないし、大型店しかががんばっていません。大型店だけだったら新宿の方がもっと集積しているわけです。今は銀座でも、個性的な店がたくさんできつつ

あるわけです。ひるがえって日野市の場合、今その10%満たない商業地域に対して、どういう個性的な店を持ってくるのか。さっき六次産業の話がありましたけども、日野の食材を使ったおいしいレストランとか、環境に優しい有機の農産物しか使わないような、そういう体に良い食材をたくさん使ったレストランや直売店とか、そういった小さくても個性的なお店がたくさんできるのがあるのではないかと思います。さっき、せせらぎ農園や石坂ファームの話でもあったように、そういう点では日野は食材の宝庫であり、それを何で活かさないのか。今はもう、物販よりもどちらかというと食べたり、楽しんだりが人をひきつけます。洋服とかそういったものは、皆さんもうたくさんお持ちでしょう。どちらかという、どうやって整理しようかという時代ですが、おいしいものを食べたりだとか、心の通った会話をしたりだとか、ゆったりとした時間を過ごす、心の豊かさということを考えてまちづくりが重要ですね。そういうものを提供するような商業サービスの地区というのをこの限られた空間の中でどうやって作るのか。おそらく、日野自動車が今度出られるその空間に作って行ったらどうか、これを私はチャンスとしてほしいです。エコタウンで、その中で楽しい空間ができる。楽しい空間の中で、もののあり方、人生の過ごし方を提案できるような、そういう「暮らしの提案ができる日野」というものを首都圏全体にもっと発信できれば、とても素晴らしいと思います。そしたら、そこに住もうという人たちがたくさん出てくると思います。そういう点で、私は日野自動車の件はチャンスだというふうに思っています。

### 陣内先生

先生、六次産業化っていうのをもうちょっと教えていただければと思うのですが。

### 細野先生

六次産業のことですがすみません舌足らずでした。一次産業というと、農業。二次産業というのは、加工したりする製造業です。畑で採れた農産物はそのまま農協に出したり、市場に出したりできるのは60%しかない。となるとあとの40%はどうしようかということになります。家で食べてしまおうか、ご近所にあげようか、それとも捨てようかということになります。これは市場価値ゼロです。だからその40%の大半を食材用に加工できるでしょ。その40%を食品産業で加工すれば二次産業で市場価値がある製品に転化できます。生のものもあります、加工したものもあります。それを全部レストランで出しましょう。シェフがいろいろと手を加えて食材にまた付加価値が付きます。

レストランは代表的な三次産業です。そうすると、一次産業、二次産業、三次産業が手を合わせる絵柄ができますね。そして3つの産業部門がうまくコラボをして掛け算すると、 $1 \times 2 \times 3 = 6$ になります。そういう六次産業を日野の地元野菜などを使って日野のレストランでということを考えていかかかなということですよ。

### 青山先生

ちょっと細野先生を挑発したいのですが。さっきの話ですが、市町村の適正規模みたいな話をしていましたけど、まさか合併に賛成とかそういうことではないでしょ。合併なんかないですよ。

### 細野先生

そうなのです。私は、個性がないと都市間競争で20万くらいになりますと、そういうのではダメなのです。桧原村の2700人の規模、これも大事。55万人の八王子も大事。17万人の立川、日野も。

### 青山先生

55万は大都市ですから。東京の一番小さい村は、青ヶ島村で人口200人ですからね。合併なんて話まったくないですよ。

### 細野先生

日本一小さな所です。ですから、東京はものすごく大きな区から始まって、日本一小さな、日本一小さな村は沖縄ではないです。本当に東京の、青山先生がおっしゃった所が、一番人口が少ないです。そういう所まですべて揃えていることこそ東京の魅力といえます。こんな素晴らしいことないです、これをもっと自覚しないと。

### 青山先生

安心しましたよ。今度は市長を挑発しようかなと。

### 陣内先生

どうぞ、どうぞ。

## 青山先生

私はむしろ、今の時代は、そういう市町村を大型化する時代ではなくて、まったく逆だと思うのです。むしろ、今の商店街の話しで言えば、商店街に自治権を持たせる、あるいは団地の自治会だとか、町会だとか、あるいはマンションの管理組合とかに、もっと自治権を持たせて、環境問題とか清掃とかまちづくりとか、教育とか、防犯とか、現にやっている所もすごくたくさんあるのですが、そういうことをもっと自主的にやれるように、いろいろ市の方で逆に渡していくと、こういう時代ではないかと思うのですが、どう思います。

## 日野市長

自治権と言いますかね。2つの視点があります。1つは、行政側から言うと、こういう厳しい財政になってきて、今までみたいにあれもこれもして差上げますよというのは言いにくい。そうなって来ると、我々は、行政はここだけは、一番下のここだけは支えて行きますが、それから上の部分はぜひ近くの方でおやりになってください、という形が段々出てこざるを得ないのかなあというふうにまず思います。もう一方で、NPOとか、地域で熱心に活動している市民団体等の方々が、行政にああだ、こうだと言われたくない。自分達でちゃんとできるのだから任せてほしい。それには、自分達でお金を回すとこれだけお金が減らすことができる。この部分だけを市民の税金の何%とでも、0.何%でもいただけるという仕掛けがあると良いなあというのがあります。なんとなく、段々そういう方向に行くような気がいたしております。その際に、予算を決めるのは議会ですから、その辺のところはどういう議論が行われるのかということはあると思いますが、基本的には段々自治というものをどんどん砕いていって、小さなコミュニティの中でグルッと回れる。まさに、歩ける範囲でいろいろな問題を解決ができると、仕事も、遊びも、教育もと言いますか、そんな地域社会をつくっていくのが、これからの理想ではないかと思っています。それからもう1つ加えると、合併ということについては、特に我が日野市とすれば絶対に反対です。このくらいがちょうど良い規模で、日野の地図はここにありませんが、犬の横顔みたいな形で三角形です。ど真ん中に、神明の大地の上に市役所があって、大体あそこの5階6階から眺めると、市全域が概ね見えます。そういう所で、行政が担えて、ちょうど良い規模であると。これ以上大きくなると、とてもじゃないけど、かゆい所に手が届かなくなるだろうというふうに思っていま

して、人口も17万何千人や18万人になりそうだけれども、ちょうど我がまちは、この程度で良いなというふうに思っているところです。

## 細野先生

青山先生から非常に重要な提案があったと思います。実は、ケインズという人をご存知かも知れませんが、20世紀を代表するイギリスの経済学者です。第一次世界大戦が終わった時に、何で戦争が起こったのだろうかと彼は自問します。そして、それぞれの国が国益だけを優先しすぎたと結論づけました。たしかに国というのはとても大事で、国単位でいろいろなことを決めたりします。でも国同士でのいがみ合いを止めないでこのままだと、もう1回戦争が起こるかもしれないと訴えるのです。この訴えは、第一次世界大戦が終わった直後です。彼のエッセー『自由放任の終焉』に書いてあるのですが、私も、国の主張だけがあまり強くなるのはどうかなあと思うのです。それよりも、国と個人との間に様々な「集まり」の単位がある。国と国との間にもある。おそらく、市町村もそうかも知れないし、あるいは都道府県もそうかも知れませんが、そういう単位のもの、国よりも、もっともっと多様性を持っている。決して一様ではなく、多様性を秘めている。だからそういったところで分権的にいろいろなことに権限を持って、意思決定できたら、もっと良い世界ができるかもしれないとケインズは考えるのです。残念ながらケインズの言った恐れというのは、第二次世界大戦という形で本当に実現してしまったわけですが、もう少しみんな地球は1つなのだと、それぞれが自分たちの幸福を求めて行く、それは国ではないかも知れない。もっと小さな単位、もっとみんなが、顔が見られる単位で、いろんな知恵を出し合う、協力し合うというのがとても大事なのだ、それが地球規模の協力にもつながってゆく、国という単位に凝り固まるべきではないと彼は考えたのです。第二次世界大戦が終わりました。その時、彼はどう言ったかという、貨幣だってそうなのだと。もう国自身が印刷会社になって独占的に貨幣を作るよりも、全世界で1つになった方が世界経済は安定する。どこの国のお金も商品の一つだとなれば、投機のようなことが起こり国際経済は不安定になると彼は言いましたけれど、残念ながら「世界単一の通貨」という彼のアイデアはアメリカの国益と相いれませんでした。それが今日まで尾を引いています。グローバル時代というものが、本当に日本、あるいは世界の人にとってもそうですけど、幸福な帰結をもたらすのかどうなのか、ということをもう1回考え直さなければいけないのではないかと、そういう気がしています。そういう点では、国というよりも、顔が見える単位というものがもっともっと重要にな

るし、地方分権の波というものは、そういう状況から出てきているのではないかというふうに思います。私はその意味では、日本人はもっと賢明になって、もっと地域からみんな決定していくような、そういう地方分権的なことをやらなきゃいけないのではないかという気がしています。

## 青山先生

細野先生に対抗して、私も先人の言葉を引用したいのですが、東京市長をやって関東大震災の後、大復興をやった後藤新平が東京市長時代に言ったのは、『自治は市民の中にあって、よそにはない』と。つまり、今の時代でいうと分権、分権っていうとなにかどこからか権限を持ってくる自治みたいなのではなくて、自分達でその地域を考えて実行していくというのが自治だと言うので、90年前の帝国憲法の時代にそういうことを言っているわけです。同時に後藤新平は、『市民1人1人が東京市長である』とそういう言い方をしているわけです。それは、地域全体のことを考えて、みんなが協力する、という意味らしいのです。だから、私はやはりそこに知恵があるので、何かどこかの地方制度なんとか会という所で、政府がやっている所で自治が来るのではなくて、日野の商店街とか、コミュニティとか、自治会とか、町会とかでその物事を決めて、そのまちづくりをやっていくというのが本当の自治だと思うのです。そういう意味で言うと、これからは、そういうことに対して、市役所が一律にやっていくことではなくて、もちろん一律にやっていくことも社会保障などでは必要なのですが、そうではなくて、そのまちの商店街のあり様だとか、その地域のあり様について、もっと地域で発言していくのを尊重していくということが必要だと思うのです。そういうことを言うと、よく議会との関係はどうなのだとかというのですが、例えば、イギリスのパリッシュ、イギリスの本国は日本より小さい国なのですが、そこで1万8千の自治体があるのです。だから、そういう意味では、日本は1700しかないですから、日本がいかに巨大化してしまったのかということがわかるわけです。イギリスの場合に、パリッシュに自治権を与える条件というのが、必ず選挙による議会をパリッシュに設置すると、そういうことをすれば自治権を与えるということをやっているわけです。それは何故かというと、例え50人とか200人とかの小さな地域であっても、そこで全員集会で決めるとどうしても、みんなにとって嫌な決定をしないという傾向がある。したがって、感情的になる。だから、議会がとりあえずつらいけれど、将来のために必要だというような決定をするには、議会を設定しなければいけない、というのがいかにも議会制民主主義のイギリスらしい

やり方です。だから、商店街だとか、自治会だとかが自治権を持たせろといっても、これは同時にその中で民主主義が完結することが必要であり、そうするとまたみんなも納得する、協力するということになると思うので、私は、日野は失礼ながら非常に市民の意識が高い所なので、日野からそういう地域自治のモデルを全国に発信してもらおうと、政府の何とか調査会でやるよりはずっと良いのではないかと思います。いかがですかね、市長。

## 馬場市長

これは本当にそう思います。市長を長くやっている、近隣の自治体の市長同士でいろんな話をします。教育長同士でもいろいろな話をします。そういう中で、ものすごい意識が高いというか、住民がたくさんいらして、そういう方が、意識が高いだけじゃなくて、きちんと発言されておられています。一方では、市を批判するけども、批判する以上に市を引っ張ろうとしていると言いますか、そういう動きがあるというのをつくづく感じています。1つ具体的な例だけ挙げて見ますと、平成12年にゴミの改革と私も言っていますが、かなり高い料金でゴミをお出ししていただくと、分別もしていただきますと、私はやったのです。あの時の、当時の一般的な政治の世界の評価は、『お前何でこんな時にやるのだ』、『選挙の半年前なんだそうじゃないかと、間違いなくお前は落ちる』ということをかかなりの人に言われました。でも私は、あの時には本当に日野のゴミはどうしようもなく、何とかやらなきゃいけないということで、現状をお知らせし、何とかここをやっていただかないと困ってしまうと、それも、日々毎日、皆がやらなきゃいけないだというようなことをかなりの回数こういう現場でやりました。結果としては、うまくいったわけですし、そういうことを考えると、こういうことができるというのは、基本的にそれをリードする、そうさそうさだといって後押しをしてくださる市民の方が、たくさんそれぞれの地域にいらしたということです。すでに、今日のかなりのメインテーマになっていますけども、エコタウンではないですが、エコな生活をするには自分一人一人がやるのだと考える人がいっぱいいたということです。日野は、はじめの挨拶で申し上げましたけれども、その時代時代で、いつも先駆けるグループや人の団体があって、なんとなくやってきたのです。ところが、日野というのは、とても奥ゆかしくて、上手なまちの人は『うちがそれはやったのですよ』、『うちがトップですよ』と大発信をするのが上手なまちもあります。我がまちの人は、皆奥ゆかしくて、トップは引いたのだけど、いいやって言って全部よそに取られてしまって、なんか最後の

方になると日野もやったのですか、なんてことをゴミ改革の時もそうでした。ご近所の名前は言いませんけども、うちがやると大騒ぎをしている人がいて、そうすると、日野もやられたのですかとかなんとか言われる。これがどうも、日野の住民っていうか先進的な能力を持っている人の、欠点というかな、だと思っていまして、それは、今回はそうでなくてはならんという思いがあって、まさに先生がおっしゃったように、これからの自治は、日野でこれまでやっていたことを、国にやってもらえば大丈夫だし、できるよというようなことを言いたいというふうに思っていて、それは是非、住民の皆さんと一緒にやりたいというふうに思っています。ありがとうございます。

### 陣内先生

日野から発信すること、課題がいっぱい出てきました。ライフスタイルもそうだし、自治のあり方もそうだし。それは、それだけ資産があるし、そういう先進性を持ったオープンな市民の方々がいっぱいいて、意識を持った方が多いということです。今日の大きな課題、まちづくりの担い手ということで、それは個性を認識した上でのことなのですが。先生方からたっぷりお話いただいています。行政がもっとシティセールスをやらなきゃいけないし、もっと住民も間に入って行って、それこそ商店街とか、町会の自治の所と連携して行かなければいけないのでしょし、それから、今まで本当に環境問題の先進地としてゴミの問題とか、水の清流の問題とか、いろいろありました。しかし、これからは、もう少し新しい経済、つまり大企業に頼らないでがんばっていくような体質に向けていく、あるいは顔が見えるように個人個人ががんばるといふ、そういう時代が求められているとすると、担い手として、今まで、もちろん環境問題のリーダーシップとか団体とか、そういう事例がたくさんあるのですが、これからはどういう担い手をどんな風に作って行ったら良いのか。特に商店街も、全国、あるいは東京でも、意外に下町のはずれの方で今、コンバージョンや新しいリノベーション、デザインで、古い建物を甦らせて、非常にかっこ良いデザインで活動している。そういうものがちょっと沈滞していたまちに、活性化の現象をもたらしているのが多いです。そういうことを含めると、外から来る人も受け入れなければいけないのでしょし、大学との連携も必要でしょし、それから我々の世代もこれからリタイアになって行って、もっと地域活動をやりたいという人もいます。それから、アラフォーの女性の方々が大変元気だとか、これからのまちづくりの担い手をどう考えていったら良いか、という大きいテーマなのですが、もう時間がないですけど一言ずつ先生方から、青山先生。

## 青山先生

私は、何で地域のコミュニティ、商店街が必要かという、これからやはり成熟社会で、防災とか、防犯とか、孤立死とか、そういうことを考えるからです。孤立死という地域イメージに影響するのです。私は都庁でケースワーカーをやっていた時に、孤立死に、どうしてもケースワーカーを2年やると、普通3回くらいは立ち会うことになるのです。すごく悲惨な死に方なのです。人間のご遺体というのは、亡くなってすぐ処置しないと、非常に傷みますし臭いがひどいのです。大体、臭いで発見されるわけですけど、孤立死は人間の尊厳を損なうのです。もちろん、発見が早ければ助かったかもしれないということもありますが、これは、やはりここで地域のコミュニティというのが問われる。これは、行政が全部防止するっていうのは絶対不可能です。また、それは弊害も大きいということなので、近所のコミュニティがすごく大事で、実はそれが商店街とも関係してくるのです。シカゴで、10年以上前に熱帯夜の連続で孤立死がたくさんあった時に、シカゴ大学の分析だと、結局、地域の商店街が衰退しているような地域というのが、孤立死の率が高いという有名な数字があります。それから2003年には、ヨーロッパ熱波で熱帯夜が連続して、フランスで孤立死がすごく多かったということがありました。いろんな意味で、私たちは地域の商店街だとかコミュニティだとかを、さらにそういう活動を活発にしていくということをいろいろ考えていくという時期が来ているのだというふうに思います。

## 細野先生

青山先生から震災とか防災とかそういう話がありましたけれども、阪神淡路の大震災がございました。その時に、各地域の死亡率というものをずっと統計を出したのですが、ある学者に言わせると、コミュニティがしっかりしている所は死亡率が10分の1くらいだったということでした。ですから、どうやってコミュニティをしっかりしたものにしていくかということが、とても大事ではないかと思います。先ほどのケインズの話を読みますが、第二次世界大戦からは第三次世界大戦まで何故行かないかという、おそらく「ケインズの知性」というものが世界中で働いているのだと思います。社会の仕掛けというものはいつもメンテナンスしていかないとダメになるというんですね。そのメンテナンスは人任せにはできないと。これは重要です。ケインズは、最近あまり評判が良くなって、あいつは大きな政府を作ったというふうにいわれているのですが、そうではないです。彼は前に紹介したエッセーの中で、「政府は何をすべきで、何をすべきでな

いか、逆に言うと政府ではなくて、一般の市民の方々が何をすべきかということをし  
っかり考えてほしい」と言っているのです。そうでないと、民主主義は立ち行かなくな  
るんだというようなことを言っているわけです。ということは、先ほど、市長さんの方  
から日野の市民の皆さんは、大変気持ちに余裕があって奥ゆかしい、という話がありま  
したけれど、逆に言うと、お互い様で手を携えようと、そういう心の余裕が十分にあると  
私は思っています。コミュニティをどうやって作るか。先ほど、青山先生からお話があ  
ったように、孤独死というのがないのは大変評価できます。ひょっとすると単独世代が  
これからどんどん増えていくのではないかと思うのですが、どういう形で市民の方がお  
互いに声を掛け合って、心の絆をちゃんと作っていくのかという所が、とても大事だと  
思います。その時に、皆で力を合わせるという場合に、何の目標も、方向性も示せない  
とバラバラなままの無縁型の社会が出来上がります。そうならないためには、「日野に  
住んでいる私たちは、エコというものを1つの目標にして、皆で手を合わせましょう」  
とか、あるいは「多様性というものをみんなで目指すためにコミュニティのあり方とか  
考えていきましょう」とか、キャッチフレーズを考えるのもいいですね。おそらく、団  
地の方々、それから農家の近くに住んでいるの方々などいろいろな暮らし方があると思  
うのですが、その生き方暮らし方の多様性をお互い同士、尊重しあうこと、分かち合うこ  
とが大事なことだと思うのです。違いがあるからこそ、仲良くできるのだと、こうい  
うまちづくりを是非是非やっていただきたいし、それは、行政が何から何までやること  
ではないのです。逆に市が何をやらないようにしたらいいのか、私たちは自分たちの手  
で何をやったらいいのか、ということを含めて一人一人に考えていただきたいとい  
うことが、ここで話したいことなのです。

### **陣内先生**

ありがとうございます。ちょうど良い問題提起と言いますか、そのようなことをご提  
案いただいて、時間もちょうど、会場の皆さんにご質問とかご意見を伺う時間になりま  
した。『一人一人がまず考えてください』という投げかけが今あったので、どうぞ時間  
が限られてはいるのですが、30分弱25分くらい、皆さんとこちらのパネラーの先生  
方、市長と一緒に討論、キャッチボールをやりたいです。お名前をおっしゃってからご  
質問やご意見をお願いします。

## 【参加した市民との意見交換】

### 市民 A

本日は、貴重な非常に有意義なお話でありました。ありがとうございます。日頃、私、日野に居を構えましてから30数年、日野の所々を見聞し、体験しています。それに基づきまして、先生のことのようなのではなくて、もっと俗っぽいアングルで、日野の環境と用水ということについて、私の私見と質疑等をちょっと述べさせていただきまして、一言とさせていただきたいと思います。私の考え方というか感じていることは、環境ということとなりますと、1つは自然の風致・景観等々を基本にした自然環境と、もう1つは社会学的な視点から見た、公害、大気汚染、産業廃棄物、汚物、ゴミ等々ございませぬが、要するに環境破壊につながるものです。要するに学名何と言いますか、環境計画と言いますか、そういうものになると思うのです。自然環境ということになりますと、日野は非常に恵まれております。先ほど青山先生からご指摘がありましたように、横に多摩川が、中央部に浅川が、平野部は用水がございませぬ。この用水も以前は、農業用水、一部は生活用水であったと。これが総延長、現在は150kmありますか、そのくらいでございます。それが走っていて水と緑を形成しています。去年ですか、『広報ひの』で、今日のパネリストの陣内先生と日野市長が対談をされておりました。私、非常にその話に感銘を受けて、賛同するところ大でございます。ただ、1つちょっと気になりましたのが、その時にこの用水を用水の裏づけとして、どうやって管理し保全していくかと、その方法論、これにちょっと言及されていなかったように思っております。ちょっと、読まさせていただきます。ご覧の通り、ご承知の通り、緑を保つ日野市のシンボリックな用水でございます。先ほど申しましたように、田んぼには農業用水、生活用水、これで非常に見かけは綺麗ですけども、非常にゴミが流れております。これは、じっと見ているとあらゆるものが。以前は用水管理組合というものがありまして、これを年に一度くらい拾いに回っておりました。それから、用水守という制度のグループの皆さんが、ずっと見守ってきていましたが、最近、この方々も高齢化してほとんど機能されていない。今、行政が業者を雇ってやっている。これは、非常に限られた回数です。ところがですね、いろいろ私事で申し訳ないですが、私日野に生活しまして、16年間用水に入りゴミを拾っております。それで、私の感じでは非常にあらゆるものが流れております。私が統計値を取ったわけではございませんけど、ゴミの大半がですね、大半と言いますか大体20ないし30%ぐらいが自然ゴミ、木の葉とかそれから農業の……

## 陣内先生

ゴミをどうやって、ゴミの問題を清掃することも含めて、用水路をどう管理していったら良いかということですよ。そういうふうなご質問ですよ。

## 市民 A

これはですね、市の行政が、やはり関与して、要するに、物事の解決には対策方法には、まあ経済学的にまたは社会的に言いますと、経費と効果。経費と効果っていうのがありますが、その効果は、経費はゴミの対策には必要ありません。行政が、施策を講じ、的確な禁止条例等々を出しますと、効果はすでに生まれるのではないかと・・・

## 陣内先生

この問題も行政が、行政に頼んで経費を使うのも難しいこともあるでしょうし、やはり、自治でということもあるでしょうし、新しい用水の使われ方、あるいは今みんな模索されていて、緑でも住まいでも空間でも、そういう所をどうやって行けば良いか、非常に大きな問題です。

## 日野市長

先ほども議論がありましたが、行政が全部受けるのではなくて、行政が出せるのはここまでですよ、ということをお話した上で、後はできるだけ地域でおやりいただけますか、という方式を幅広く、これは用水に限りません。商店街のことも含めて、そういう仕掛けを作っていくということが、一番大事であると思います。むしろ、地域同士が競争し合うと言いますか、そのくらいの迫力を持った方が良いのではないかと考えています。中々、すぐに作るのは難しいですが、やはりできる所からやっていただいて、モデルを広報等でお知らせをする、ここではうまくいっていますよ、という形を報告すれば、段々話が広がっていくのかというふうに思っています。今、用水の整備をしながら、整備した所については地域でお願いします、ということをお願いしています。その辺の所を伸ばしていきたいというふうに思っています。大変貴重なご意見をありがとうございました。

## 市民 B

私、一教育行政の研究者で、小学生が面白いですが、2点ですね、さっき細野さんが意思決定をぜひ市町村に、ここは賛成の面があるのですが、ちょっと気になるのが、実は日野市基本構想、基本計画という去年3月に出たもの第五次、これの中の65ページに学校評価というものがあるのですが、法律で言えば、教職員の自己評価、保護者、地域住民が行う評価、学校関係者評価、よくアンケートで行うものです。これは私も必要だと思っているのですが、文部科学省が第三者評価なんていうのを出していて、全く何も知らない人が学校に来て、文部科学省が定めた全国統一的な指針に基づいて評価すると、これはおろかなことだと思います。本当に地方分権に反するというかですね、知らない人が来るのですからね。私は、第三者評価をやらないということを65ページに明記すべきだということが1点目です。2点目はですね、さっき細野さんが意思決定を市町村、これはですね、誰がやるか市町村の。というのは、実は、市長で大阪の橋本さんという人が、自分で全部できるようなことを言っている。あれは、ものすごく不安なのです。基本条例だとか職員条例だとか触手してしまうと思うのです。そういう点で、もっと住民の声を聞いた意思決定を必要だと思いますので、その辺をお答えいただきたい。最後に成人式は、私はあまり君が代を強制しない方が良くと思います。以上です。

## 陣内先生

ちょっと今日のテーマに、できるだけ皆さん協力してください。そうしないと時間限られていますので、簡潔に。

## 細野先生

やはり、言葉のキャッチボールが、コミュニケーションが大事ですからね。今のご指摘、とても大事な話だと思います。評価という作業は、一般的にとっても日本人は苦手です。先生が一方向的に学生を評価するのではなくて、私達も、講義をすると学生たちに評価されるのです。評価を見ますと、低い傾向になる原因が2つあります。1つ目は、難しいテーマ、難しい科目。私は統計学を教えていますけど、本当に評価は最低なのです。2つ目は、あまり難しいテストをすると、それもダメなのです。そうすると評価ってなんでしょうか、とことになりますよね。ですから、評価の仕方には、十分気をつけなければならないし、やはりそれを金科玉条するのではなくて、この評価はどういう形で次

のアクションに持っていくのが重要です。要するに、評価してそれで終わりじゃなくて、それを次の改善に導くための情報としてどう使うかというのが大事だと思います。

### 青山先生

学校こそ地域コミュニティの核としてあるので、学校の評価なんて地域住民や父母が、あるいは特に子供が、先生の評価を含めて、これは十分できるわけであって、全国一律でやるべきことではないと、私は思います。

### 市民 C

甲州街道駅と日野第四小学校の間くらいに居住いたしまして35年経ちます。先ほど先生のお話の中でも楽しそうなまち、それから商店街の兆し、六次産業の兆しというお話、その辺りから1点お話をさせていただきます。35年前に越してまいりました時には、あなたよくこういうと子に來ましたね、この地域はね日野のチベットって言われているわよと。チベットの方にも失礼ではないかなと思いましたが、自然と利便性、道路整備などがバランスよく整ってきたと思います。そして今、私は年金生活世代に入りますが、国も市も財政困難な折に、年金の、いただけるだけの試算よりも少ない額のお知らせが來ました。でも私は、それを良いエネルギーに変える方法を見つけました。それは、まず1つが、入っていたスポーツクラブで月謝を払って体を鍛えていたのをやめました。その代わりに、日野の、私のいる近くでは野菜の直売所がたくさん増えていました。新しい住宅が建つと同時に野菜の直売所を5、6箇所巡ります。そして、私なりにウォーキングを兼ねて、お財布にも体にも良いと。そして、最低価格のお店を見つけた時の30円の違いのうれしさを実感しております。そういう中に、忽然と畑の真ん中にカフェが出來まして、そのカフェのお勧めは生姜ご飯です。つまり、地産地消でポツンポツンとそういうお店が出來ているのです。それがつながって。オレンジ色のエコバッグを持って、楽しそうに歩いている人がいたらそれは私です。

### 陣内先生

ありがとうございます。そういう話です。待ってましたとばかりに。

### 市民 D

“まちづくりフォーラムひの”というのを主催しております。来年、機関誌『湧水』というのを出しておりますが、100号になるところです。だけど、私、3代目の代表

でして、唐様で書く何とかと言われぬように頑張っていくと思っています。陣内先生も主催された仲田の森で集まりがありました。あそこに旧蚕糸試験場、桑ハウスと呼ばれていますけれども、第一蚕糸ですが、残っております、これを非常に見直す機会になった。横浜の先生が、世界文化遺産にしようじゃないか、というそういう盛り上がりまでになりまして、富岡製紙場、八王子、日野、横浜、これを結んでシルクロード大構想を物語として描こうじゃないかと、そういう多岐に要求された会だったので、それをぜひ日野を活性化づけるイベント、あるいは目標として“社会文化遺産になる日野”というテーマで構想を描きたいと思っております。それから、もう1つ言っておかなければいけないのが、猛々しくイオンモールが進出しますが、あそこの多摩平の下水処理場跡地、これは元々湧水地で黒川が流れておりまして、もう住宅地化していますけれども、なんかマンションの用地として売られる、というような情報も来ております。あそこは、豊田駅からも歩いて5分、本当に良い所で、後背の丘陵地も残っております。あそこの湧水地は、大雨が降ると道路からいっぱい溢れてきます。そこを、例えば森の睡蓮の池のように作り直す。元々あそこは、湿地帯ですから水田があった所です。こんなに近い所に、こんな良い財産があるのに、マンション用地ではもったいない。財政再建も大事ですけども、後世にこういう遺産をぜひ伝えていきたいなと前々から考えを持っています。よろしくお願いします。

### 陣内先生

どうもありがとうございます。

### 日野市長

かなり具体的なお話で、50年後ではなくて、来年どうするかという話になりますが、仲田地区の桑ハウス、1個残っているのは残すつもりでいます。ただ、中々改修が難しいと言いますか、変に改修してしまいますと、元も子もなくなってしまうことがあります。ただ、あのままで行くといつ壊れるかわからない、雨漏りがするというところで、あの形を残しつつ外見をあまりいじらないで、うまく活用出来るようにしたい。あそこの公園と新しく出来ましたふれあいホールとを合わせて、大勢の市民が文化・芸術的な、あるいは日野産の食材を食べられるような、そういう場所として末永く守ってきたいというふうに思っています。豊田地区です。これは大変恐縮ですが、地域の方々の広場が少し出来ます。それ以外の所は残念ながら、平らな部分については民間の業者

に開発をされるということになります。それ以外の斜面の所はしっかり残して、水路がおかしくならないような配慮だけはしていきたいと思っていて、今、地元の人たちと話し合いを進めているところでございます。

## 市民 E

ちょっと具体的なご提案をします。バイオ立国という言葉がありますが、バイオ立市というのはどうでしょうか。日野でバイオの製品を製造し、世界に輸出する、これが私の夢です。実は、今年75才になりまして、初めてこの冬4度病院に通いました。最初の2回は、日野の市立病院に通いまして、一割負担です。そうすると、一割負担でも、払うのが1400円とか1800円だったのです。そうすると、市の財政に圧迫をかけたのではないかと思います。後の2回は、渋谷の方のかかりつけの医者に行きました。4回、本当に初めてです。市立病院で診断されたのは足底腱膜炎だったのです。この踵に骨が出てくるのです。20何年ぶりに日野に帰ってきまして、あまりに嬉しくて走りまくったのです。そしたら、踵に骨が出ちゃったのです。歩けなくなってしまった。それで、市立病院に行ったのが2月20日で、レントゲンでこれはあかんということで。それで、先生どうするのですかと言うと、切らなきゃしょうがないと。悪くなったらヒアルロン酸があると。それから、ダメだったら切開手術だと。これは大変だと思って、先生薬を飲むのですか聞くと、炎症鎮痛剤をくれるそうです。炎症鎮痛剤と聞くと、副作用、腎臓とか肝臓とかに副作用が。それを私自分で持っている薬で治したものですから、ぜひ一度ご検討をお願いしたいと。

## 市民 F

手短に。私は、市内にはたくさん素晴らしい大学があるのですが、京都に住んでみたかったので、申し訳ないですけど京都の方に行ってまいりました。大学4年間。それで、関西の人が多いので、当然だと思のですが、東京に対する風当たりがものすごく。奥ゆかしいと市長がおっしゃっていると思うのですが、本当に日野の存在感はゼロに等しくて、日野自動車を知っているかどうかで、新選組もちょっと京都ではあまり評判も良なくて。かなり肩身が狭い4年間だったのですが、本当にシティセールスのお話もされていまして、関西の方、すべて東京都内のこと全部歌舞伎町だというようなイメージを持っておられるようなので、やはり緑と水というようなこととか、交通の要衝であるとか、もっとアピールしていかなければいけないのだと思うのです。やはり、福

島のことでもあったと思うのですが、国の情報よりもサッカーで来たメッシのブログの方が、効果があったということもあったので、その辺が、市民が活動しなければいけないことだと思うのですが、その辺・・・・・・・・

### 陣内先生

市民の方々がすでにやっていたということが、普遍性を持って、世界にアピールすることばかりなのに、やってない。

### 日野市長

本当に、関西の人は日野を知らないと言いますか。日野と言いますと、滋賀県の日野町でしょ、と言われます。京都にも日野というまちがあって、どうも日野というのは、東京や関東にあると思っていない人が非常に多いです。それはおっしゃるとおりです。新選組もそうですけど、市民と一緒に市も、もっともっとやらなければいけないというふうに思っているところであります。結構良いことやっているのですけどね。

### 市民 G

私はしょっちゅう黒川清流公園に散歩に行きます。いつも思うのですが、もしあの黒川清流公園が、仮に京都にもしあったとします。そうしたら、哲学の道とかありますが、清流が流れているではないですか。あれに負けません。素晴らしいです。あるいは、京都にあるものよりも有名になってします。私は旅行が好きで、あちこち行くのですが、まず津和野とか、飛騨高山の隣だったか、飛騨古川というのがあります。それと後、郡上八幡ありますよね。ああいう所が、ちょっと日野と似ているのですが、ああいう所と比べても、絶対負けません。ただ、発信力がないだけです。だから、本当に日野の、個性ある湧水、用水、これを発信する必要があると思うのです。例えば、秩父の札所巡りとか、四国の札所巡りとかいろいろありますけど。例えば、今言ったようなまちと交流して、湧水・用水サミットみたいなものが出来ないかだとか、そういういろいろなアイデアを考えて、新選組祭りもありますが、湧水に関する祭りというに変ですけど、ただ、どういうイベントになるかわからないけど、考えてみる必要があると思います。そのためにも、私が一番心配しているのは、50年後に湧水が守れるかどうかなんです。あるいは、水枯れしちゃったらどうしようもないですしね。今、条例がありますけど、それをもっと強めて、何とかいろいろな、用水のまちとか、湧水のまちとか、いろいろあり

ますけど、その辺を十分考えて、何とかこの遺産を、資産を残して行きたいと、それを切に思っています。私は豊田に住んでいますけど、さっき市長がおっしゃいましたが、今度、自然公園が進んでいるのです。ただ一つ無いのが、急激な人口増に対してちょっと集会所が、中規模のものが無いという、それをぜひお考えいただきたいと。以上です。

## 市民 H

たまたま、日野自動車の跡地にシルバーを中心にしたエコタウンを設計協議で計画したもので、ここに来ているのですが、そこでちょっとわからなかったこと、50年後、二世帯先で、日野市のシニアのパーセンテージというのが、わからなかったのです。先生方がおっしゃられたことをかなり網羅したものを考えていたのですが、たまたまそうだったものですから、将来どうなるか、人口的にというのは、今、没産化しているような所もあるので、日野はどうなるのか、ということを経理にお伺いできればと。

## 日野市長

50年後の日野の人口はどうなるのかってということですよ。多分、10年間くらいはまだやや人口全体は増えそうです。今、17万8千か9千ぐらいですが、18万いくつかと言うところまでは行くと思います。それがピークです。それから、段々減って行くだろうというふうに思います。ただ、わからないのは、これは国の政策にも関係しますが、外国人をどれだけ日本という国が受け入れるようになるのか、それがまったく見えません。今の状態のまま、日本人だけで行くということになれば、どんどん減って行くだろうと思います。そうすると、おそらく12万とか11万とかそういう数字が想定されるのではないかと思います。ただ、今、私ども災害に思っているのは、お年寄りが確か12%ぐらいですか、65才以上が。ですから、それがもう少し増えていくと思いますけど、小さい子供たちと言いますか、15才以下と言いますか、この辺の年代がずっと安定的に推移しているのです。減っていません。ですから、子育ての施設、保育園とかそういう所が、もっともっとほしいと言って、子供の絶対数は減っているにも拘らず、増やしているという状況があります。彼らが未永く、日野は良いと言って住んでいただくと、50年後、彼らが高齢化しますので、多分大丈夫であろうと。彼らが育ちやすい地域を我々が作っておくということが、次の世代を残すことになるだろうと思います。一つは、半歩的な言い方になりますけど、南の丘陵地帯、一時にどんどんいろいろなグループが開発をいたしました。斜面をどんどん崩して。そこからは今、どん

どん人が減っていて、そこで育ったお子さんがほとんど帰ってこないという状況がござ  
います。そういうまちづくりはいけないというふうに思っています、できるだけ、い  
つまでも育っていただける環境の良い、そういう地域づくり社会づくりを心がけるとい  
うことだろうと思います。

### 陣内先生

高度成長期にどんどん自然環境を壊して開発して行った所ですよね。逆に衰退してし  
まっている。すみません。後、お1人です。会場の都合で時間が短くて申し訳ございま  
せん。

### 市民 1

いろいろと良い話を聞かせていただきありがとうございました。それで、一番印象に  
残ったのは、馬場市長が、日野は工業生産率、工業出荷率で東京一ですか、というこ  
とですけど、要するに今、東芝、日野自動車がどんどん撤退します。それで、馬場市長  
がおっしゃっていたのは、昔の工業地帯に大企業が来たときは、会社にお任せして、ど  
んどん会社の名前で、こういう大きい会社が来たから嬉しいというのが、市の態度で  
した。市は、工業を誘致することに対して、はっきりとした政策があんまりなかったの  
ではないのかということをおっしゃってしまっていて、馬場市長の時になってからは、  
割合そういう政策を前面に出しているような気がしますので、それは、僕は素晴らしい  
ことだと思うのです。会社が、例えば、日野自動車の日野、東芝の日野、自然動物園の  
日野、とね。主語の枕詞は全然日野ではないのです。ですから、そういう会社だとか、  
動物園で有名になっているのは、ちょっとだらしが無いということです。是非、馬場市  
長にお願いしたいのは、今後豊田の北口に空き地があります。今度イオンが来るとかお  
話を聞いていますけど、経済に行政が介入するのは限度があると思いますが、会社に  
全部お任せではなくて、日野市としての1つの態度というかそういうものをぜひお願い  
したいと思います。それから、細野先生にお願いなのは、私は会社を退職しまして、し  
ばらく中央大学の大学院で勉強させていただいたのです。非常にお世話になったので  
すが、さっき商店会が盛んにならないと。それはその通りなのですが、日野の市民は大  
体、真面目過ぎてしまって、夜遊びに行くのが下手だと思います。私なんか高度成長で、  
ずっといろいろ遅くまで残業ばかりさせられまして。それで、中央大学に行って感じた  
のは、若い学生はいっぱいいるのだけど、ゼミの、例えば忘年会だと、なんかやるとき

には日野でやらないのです。これはおかしいです。どこに行くかという大体府中で。それか新宿まで行ってしまふ。なんで新宿まで行くのだと。日野でやったらどうだというのだけど、日野なんかたいしたことないですよと。これが一般の学生の、中央大学の生徒はそうなのでしょうけど。例えば、陣内先生の法政でも、この辺の近くの学生の人達は、もっと地域のお店とか、若者がいっぱい居てじゃんじゃん騒いだりする。私の知っているフランスの創作レストランの店をやっている人も、日野の野菜を美味しいからっていうので、八王子から日野に来てやっているわけですよ。ですから、ぜひ先生方は、それからもう一つは、先生方のお話はよくわかったのだけど、では自動車産業か何かか衰退していて、新しいエコノミーか何かわからないけれども、どういう産業が来るのか。その辺を一つ先生方の中で、サジェスションしていただければありがたいと。ですから、各大学の若者たちに、日野や八王子のお店をどんどん使いなさいということをお願いから証明してください。お願いします。

### 陣内先生

ありがとうございました。具体的で、絶対やらなければいけない課題、そして産業を作っていくと、大変良い質問をいただきました。ありがとうございました。ここで、そちらとの対話は申し訳ないですが、終了します。いろいろとご質問やご意見があると思うのでアンケート用紙に書いてください。特に質問に関しては。そうすれば、行政の担当の方からお答えがあるそうです。よろしくお願いします。それでは、日野の方々はずごいなあと、パワーがあるなあと。何て言うのでしょうか、ご自身の哲学というか、生き方を追求されている方がいかに多いのか。期待できるけど、協力していくのは大変だということもあるので、ぜひ、行政の人達とも連携して、大学とも連携していただきたい。でも、大学自身は反省しなきゃいけないですね。そういうこともいくつか出てきたので、それを受けて、市長を含めて各先生から最後の締め、提案に結びつくような、こういうことをやるべきではないかというような。いろいろなポイントは出ているので、締めていただきたいと思うのですが。1人3分くらいしかありませんけど。

### 青山先生

湧水・用水サミット、あれは良いですよ。ぜひ、やると良いと思います。似たようなものがいくつかありますけど、米沢とか伊予西条とか、そういうのをいろいろ加えて、ぜひ日野でやると良いと思うのです。水辺でやると良いと思います。同じような意味で、

新選組サミット、あれを京都に乗り込んでやると良いと思いますよね。切り結んでも良いと思います。その場合、京都というのは、実は、神戸や大阪と近くて、近畿、関西で一体ですから、そういう意味で、日野がもし観光で稼ごうと思ったら、それは絶対良いと思うのです。それから、ちょっとまじめな話をすると、50年後で言うと、私は50年後に人が日野に増えるか減るか、あるいは良いまちになるかどうかの鍵は、1つは、やはり広い意味でのまちづくりがどうなるか、ということだと思います。市の良い所は、環境は極めて良いので、まちづくりさえうまくいけば、私は増える、減るはどちらでも良いのですが、良いまちで50年後もあるというふうに思います。その場合、具体的なことを1つ言うと、マンションとか一戸建ての家屋が老朽化していった場合に、どうするかという、制度とか、考え方とか、方法が日本ではまだ無いのです。今まで作る方法ばかりやってきた。マンションだったら、分譲マンションの共有持分権をどうするか、そういう制度は、日本は正規に作ってきた。これからは続々と、このマンションは壊そうとか、建替えようとか、リフォームしようとする時代が今度は来ているわけです。その場合に、老朽家屋もそうです。そういう場合に、リフォームするのか、建替えするのか、除却命令を出してしまうのかというような、この辺についての議論を今からしておいた方が良いまちづくりにつながると、そういうふうに思います。もう1つ、日野には良いポイントがいろいろあるので、ボストンのフリーダムトレイルみたいに、ポイントじゃなくて、そのポイントをどういう順路で回れば良いのかというコース制をぜひやれば良いと思います。私は、東京都にいた時に、歴史と文化の散歩道というのをやったことがあるのですが、それはぼつんぼつんと石標を立てているものです。今でも、東京中にありますが、そうではなくて、連続性があって歩けるというのを作って行くと良いのではないかと思います。いずれにしろ、場内の皆さんの発言を聞いていると、やはり後藤新平の言ったとおりですね、細野先生がケインズをまた出したから、向こう張りますが、やはり市民にこそ知恵がありますね、そう思いました。ありがとうございました。

### **細野先生**

市長さんから、日野の人達は奥ゆかしいというお話がありましたけれども、全然違って、とても元気だと思いました。私は、実は統計で見ますと、団塊ジュニアの世代の住んでいる割合というのは、多摩は23区から見ると低いのです。ところが、町田、それから日野は結構高いんです。どうしてなのかとよく考えたのですが、また行政の方で調査してほしいのですが、やはり元気で皆さんが言いたいことを言い合う、これが魅力だ

からかな、というふうに思いました。それから、今度は日野市の外に、外に発信しましょう。私は、それを皆さんに言いたいし、市だけがシティセールスするのではなくて、皆さんに「日野はとても素晴らしい」と、それぞれシティセールスをしてほしいというふうに思います。

### 陣内先生

こういういろいろな、かなり広い視野での担い方、将来展望みたいなものは、初めてだったそうですね。こんなに言いたい方々がいらっしゃって、ご意見があるのに、もっとしょっちゅうやれば良いと、本当に思います。

### 日野市長

初めのうちは、この50年何てと言われました。行政というのは、去年どうであって今年はどうで、来年どうだと。予算というのは、そういうものだということで、こんなこと言っても、荒唐無稽だろうということをしていただきました。でもあえて、初めに言わせていただいたんですが、本当にこんなに幅広い分野に、いろいろなご意見をいただいたということで、改めて日野市民の先進性というか、リーダーシップを痛感したところがあります。本当に心強いなというふうに思いました。そういう所で市長が出来ている私は、冥利に感じています。それで改めて申しますと、日野というのは、ヘソがないまちと言われます。ここが中心という所が無いのです。バラバラなのです。そのバラバラを活かす、とても良い時代が来たなあとと思います。日本全国でも地域主権と言うけれど、日野の中でも地域主権で行くのだという形が良いのかということも改めて痛感をいたしました。それから、担い手の話を先ほど言い忘れたので。女性が本当に大事だということはもちろんですが、団塊の世代の方々、これからお迎えになる方々も、今まではどちらかという定時制の市民だったというふうに反省をしていただいて、全日制の日野市民として、ご活躍をいただくとありがたいなあとというふうに思います。それから、何といっても若者が集まるまちでないといけない。若者が何かやりたいと言ったら、行政が応援して、この空き店舗を貸すよと。貸すけどお金は当分市が持つというくらいのことと言って、若者がユニークに日野で新しいお店を始める、そんな駅前を作って行くのも、1つの方策かというふうに思っています。小さな商店、事業所、数多く栄えるというのがまち、あるいはこれからの自治の一番の基本だというお話もありました。今日の

お話を基に、さらに発信ができるような行政としての努力を続けて行きたいと思います。ご支援をいただきたいと思います。ありがとうございます。

## 陣内先生

あっという間に、2時間が経とうとしていまして、もう締めなければいけないということです。結論なんていうのは出るはずもないし、まだ必要ないと思います。みんなで意見を出し合っ、良さを掘り起こし、再評価し、そして50年後の日野のビジョンを語ろうと、こういう趣旨です。しかし、重要なポイントがいっぱい出ましたので、ちょっと自分なりに振り返ってみたいと思います。やはり、個性をまず捉えるということがあったわけですけど、本当に様々な個性が出てきました。一番これから重要なことは、やはり地の利が良いこと。交通の要衝というのはこれあらゆる時代に良いわけです。今までは、どちらかというともベッドタウン化してしまったので、その地の利の良さというのが、逆に通勤とか距離とかだったのですが、ここが発信基地になって、新しい産業も来て、小さい顔が見える。そういう事業者の人々も、それが新しく農業をやるような人達も、そしてこの環境の良さに魅かれて来る、そういう新住民の方々もまたこれから来るかも知れない。企業も来るでしょう。そういう人達にとっても、地の利の良さというのは、これから21世紀の中盤にかけて非常に重要なメリットだと思います。それから、僕もこの間、イギリスとかアイルランドで見えてきましたが、いろいろな企業を惹きつけるインフラが整備されている。これは、情報インフラも含めて。交通のインフラもある。日野の場合は、交通が良いということと、水路というのはこれからの新しいソフトなインフラではないかと思います。環境とか、文化とか、生活軸としてのインフラ、これがこんなに整備されているわけです。これをどうやって管理するのかというのは非常に、農業が衰退してきている中で難しいですが、農業をまず、新しい命を与えて活性化する、というのと同時に、環境やアメニティ、良質空間の豊かさ、個性作り、環境にとっても、用水路は非常に重要で、用水路、川、湧水の、黒川親水公園の話もありましたが、こういうのは全部ソフトなインフラなのだというふうに捉えると、そこにもう一回投資をしたり、価値付けたりすることも良いと思うのです。それで、そういうインフラというのはつながっているわけですから、そうするとさっき青山先生がおっしゃったボストンの歩いて回るルート作りですよ。市長がバラバラな状況というのが今まであってネガティブだったけど、これからはそうではなくて活かすのだ、ということです。もう1つは、地域の自立性とか、自治とかという問題と絡んでいるわけです。これは、細野先生、青

山先生がまさに強調された、健全な、大きい国家ではない、小さいものが重要だという論。まずこれを日野がまさに発信する。発信する課題がいっぱい出てきたのですが、そういうふうになってくると、私達、エコ研は、地域の地勢とか、歴史の形成とか、コミュニティを分析して行って、本当にたくさんの個性あるまちや村、地域があることがわかったので、それをつながなくてはいけないということです。そのつなぐ方法としては、さっきご提案があったボストンの回るルートもあるし、我々の歴史・エコ廻廊もあるし、エコミュージアムというのもあると思います。そういうのをこれからぜひ皆さん、市民の方々、地域の方々と一緒に作って行ってほしい。それから、さっき京都の学生生活を送った方が、日野が全然知られていないという、非常に重要なご指摘がありました。確かに、日野はこんなに良いものがあるって、東京の人でも知らないです。僕らが本を出しても、やはりもうひとつで、もっと売っていかねばいけないのですが、やはりメジャーなルートに乗りにくいのです。それは今、メディアや発信できるものがいっぱいあるわけですから。発信するのにバラバラな情報ではダメなわけです。大きな物語を作らなければいけないです。さっき、仲田の森で蚕糸試験場の評価するためのシンポジウムをやって、大変重要なイメージが出てきたということで、実はそういう地域資産を活かすまちづくりをやっているプロデューサーの方が来て、意味付けをしてくださいました。その人は、横浜にこだわってやっていて、横浜には蚕糸試験場なんて無いです。でも、絹の糸ですずっとつながっていて、横浜港から八王子で生産しているものを世界に出して、日本の近代を支えたわけです。その中核に日野があったと。物語作りは非常に重要で、そういう意味では、さっきの湧水・用水サミット、これはまだないわけですか。そして大変な穴場です。これは、今全国の人の心に響く大変重要なものなので、ぜひそういう発信する。そこにシティセールスという実際の課題もあるし、むしろこれは市民がやらないといけないですね。今の時代、まさにそうやって発信してほしいと思います。自治と、それと自分の市を発信する、そういうことです。そして、自然の用水というのは農業、環境を守ることと同時に、アメニティにとっても、風景にとっても、それから歩くことにとっても重要だということです。歩いて地産地消する、そういう体験をなさっているというお話の中で、そういう所にカフェが出てくることは新しい担い手です。そういうものを惹きつけるためには、やはり最大の資産なので農業、風景、用水路、自然、崖線、そういうものを50年後に残していく、維持するそういう努力が大事です。これは、行政の努力が大変重要です。用水の管理は、むしろ住民自治であろうと思います。いろんな課題が出てきました。それから、若い人たちのエネルギー、団塊の世代の我々

も。だから、様々な立場の人達が、様々な経験と技術、知恵を活かしていく。情報発信は若い人たちがうまいかもしれない。だけど、年配の人は過去を知っていて、記憶をもう一回現代に活かすことを知っているかもしれない。そういう連携です。シェアするということが、最近非常に重視されています。コミュニティカフェというのも注目されています。居場所を作って人が集まるそういう拠点が、細かい所にいっぱい出来てほしいです。市民ホールとか、行政が作る組織だけではなくて。こういう会はもっともっとあってほしいと思います。ということで、今日、結論を出す必要は全然ないわけで、集まられた方々が1人1人受け止めて、これからどんどん積極的に活動して、仲間を広げていく。行政にも、さらに反対するとかそういうことだけじゃなく、要求するとかそういうことだけじゃなくて、一緒にやりましょうということを、今日皆さんと共有できたらと思います。本当にパネリストの先生方、市長さんありがとうございます。会場の皆さんありがとうございました。

## 司 会

先生方、ありがとうございました。また、日野市長ありがとうございました。以上を持ちまして、50年ビジョンシンポジウムを終了させていただきたいと思います。今回のパネラーの先生方や会場の皆さんからいただきました意見を踏まえ、今後の日野市のビジョン作りに役立てて行きたいと思います。また、うまく段取りができずに申し訳ございませんでした。ご意見いただける方、手を挙げていただいた方が残ってしまいました。お配りをさせていただきましたアンケート用紙に、もし『何々先生に』ということで質問等がございましたら、お書きいただいて、連絡先もお書きいただければ、こちらから丁寧に回答させていただきたいと思います。また、お配りさせていただいておりますアンケートにつきましても、会場を出た所にて回収をさせていただいております。どうかご協力をお願いしたいと思います。本日は本当にありがとうございました。